

学校名	与論町立茶花小学校
活動名	ユンヌの海とわたしたち
教科	総合的な学習の時間, 社会, 学級活動, 学校行事
学年	5年

1 活動のねらい

珊瑚礁に囲まれた美しい海。この、多くの人が憧れる与論島でも、海や自然は子どもたちにとって「背景」になっている。児童の遊びや生活は都市部とさほど変わらない。そんな子どもたちに、与論の豊かな海と親しむ活動・環境保全の活動を通して海への関心を高めるとともに、海と産業とのつながりについても理解させ、持続可能な社会の形成者としての資質、能力、態度を養うことが、本活動のねらいである。

2 実践内容・実践の流れ

(1) 出会い・気づき

日頃の生活やこれまでの地域学習を踏まえながら、ユンヌ（与論）の海について、改めて観察・体験・調査し、感想や疑問などの気づきを確認した。



① 海の観察（5月）



②校内の海盆栽（常時）



③ グラスボート体験（7月）

この生き物の名前は何？
サンゴって植物？動物？
どうしてこんなに海がきれいなのです？

砂浜よりも道路にゴミがたくさん落ちている。
砂浜や海になれば海には関係ないのかな？
海や魚の害には・・・ならないのかな？



④ クリーン作戦（10月）

(2) 考える・調べる・表現する

ア 海と様々な視点から関わっていらっしゃるゲストティーチャーを招いて、学び、考えた。



⑤ 「誇れるふるさとネットワーク」代表（11月）



⑥ 「海の再生ネットワークよろん」代表



自分のできることで何があるのだろうか？

40年前と比べるとどうしてこんなにサンゴが減ったのだろうか？

No.1 サンゴのひみつ No.2 サンゴの恵み No.3 サンゴのピンチ

(10月)

(11月)

(12月)

イ 分かったことや新たな疑問など、自分やみんなの考えを伝えた。



みんなの気持ちを一つにして。気づいていなかった与論(ユヌ)の海の素晴らしさ。守っている人がいること、自分たちにもできることがあることを、伝えたい。

⑦ 学習発表会の演劇「与論の海を守りたい」(11月)

⑧ 新聞づくり(12月)

それぞれに感じた視点で新聞作りをした。自然について、クリーン作戦について、生きものについて…。



(3) 生かす・広げる

学んだことを自分の生活に生かすとともに、自分の学びを周りに広げていった。

⑨ これまで来ていただいたゲストティーチャーを招いて、自分たちが学んだことや生き方について考えたことなどを発表し、それについて、意見してもらった。(1月)



私たちでもできることを見つけました。また、実際に行動していることもあります。そして、これから家族や地域の人、与論島に来る人に伝えていきたいことがあります。

⑩ パンフレットをつくる。与論の紹介冊子づくりをしている与論高校生に来てもらい、思いを伝えながら、上手な作り方を教えてもらった。(1月)



配置の仕方や写真の使い方などアドバイスもらった。



⑪ ヨロンマラソンに来島する参加者に、パンフレットを配り、与論の海と自分たちが学んだことについて知ってもらうようにした。(3月) 今後、日本エアコミューターの機内でも配布される予定。



ヨロンマラソン参加者へのパンフレットの配布を、観光協会を通じてお願いした。



ヨロンマラソン、ウェルカムパーティーで、活動の報告をする機会を得られた。

3 実践の成果

- ・ 地域のゲストティーチャーに授業をしていただいたことで、子どもたちが地域での活動に興味をもち始めた。クリーン作戦やウォーキング大会に、子どもたち同士で誘い合って多数参加したり、ヨロンマラソンのボランティアの募集に進んで手を挙げたりと、休日の過ごし方が変わってきた子どもも多い。
- ・ 地域で環境保全の活動をしながら、その活動を広く全国へ伝えていच्छる方とつながりがもてたことで、授業後も子どもたちの変化をこちらから伝えたり、更に新しい取り組みを子どもたちに紹介したりしている。できるだけゴミを出さない工夫、洗剤を使わない工夫等が、家庭だけでなく、地域にも伝わり、地域全体の意識が少しずつ高まっているのを感じる。
- ・ 計画が定まっていなくても、「外に出る・話しかける・実行する」ことで地域や人とつながることから教師自身の学習が始まり、それが子どもたちへ波及していくことを知った。環境についての人材確保は進みつつある。
- ・ ヨロンマラソン参加者に向けたウェルカムパーティーでの発表は、大変好評で、多くの方々から賛辞をいただいた。また、数百人を前にして自分たちの伝えたいことをプレゼンテーションする経験は、繰り返し練習をしたり、話し方を工夫したりするなど、とてもよい場となった。
- ・ 現在も、作成したパンフレットの活用について、日本エアコミューターの機内での配布に向けて準備中であり、地域生活に参画できるような活動を展開することができた。

4 地域との連携

職員も海や地域について知らないことが多かった。しかし、地域には漁業、観光業など仕事を営む方、生き物の研究をしている方、海を守る活動をしている方など、海をフィールドに様々な方が関わっていらच्छることも見えてきた。探究すればするほど、そういった人材の存在が見え、つながっていった。

知る・学ぶという場面だけでなく、伝える・広げるという場においても地域との連携を深めていきたいと考える。

今年度は、次の関係機関にお世話になった。

- ・ NPO法人 誇れるふるさとネットワーク 代表 池田龍介さん
- ・ NPO法人 海の再生ネットワークよろん 事務局長 渡邊暢雄さん
- ・ 鹿児島県立与論高等学校3年1組のみなさん、地域起こし協力隊 原田理恵子さん
- ・ 与論町商工観光課、総務企画課、ヨロン島観光協会

活動が広がる中で、他にも協力したい、協力できるという関係機関のお話もいただいております、子どもたちの学びの中に、適切に位置づけたい。

5 今後に向けた改善や展望

- ・ 海洋教育の視点から考えられる教育活動を洗い出し、発達段階に応じて系統的に指導できるようにしたい。そのために、全学年の教科・領域を見直す。
- ・ 安全面での視点を計画的に加えていきたい。
- ・ 今年度の計画をもとに、一つ一つの体験や学びをさらに深めていきたい。
- ・ 本校だけでなく、与論町としての海洋教育の取組に発展させ、中学校、高等学校と深まりのある学習にしたい。



5年生「ユンヌの海とわたしたち」

【実践のねらい】

「東洋の真珠」とも呼ばれる与論島は、鹿児島県の最南端にある周囲 23 km の小さな島である。珊瑚礁に囲まれその美しい海は多くの方が憧れるほどの自然にあふれている。しかしながら、自王の遊びや生活は都市部と変わらないものになってきている。与論の豊かな海と親しむ活動や、漁業や観光などの与論の主な産業と海とのつながりを調べたり体験したりする活動、環境保全などの体験を通して、海に対する豊かな感受性を培い海に対する関心を高めるとともに、産業、歴史、文化など海洋と与論島の生活との関係及び海を通じた世界の人々との結びつきについて理解させ、持続可能な社会の形成者としての資質、能力、態度を養う。

○時数 5月～3月 35時間

- 目標 (1) 実際に海に行き、海の生き物やそこで働く方々と触れ合うことで、海の環境とわたしたちの生活とのかかわりについて、自分の課題として考えることができる。
 (2) 海を守る活動について地域の方々のお話を聞くことで、地域の現状を共感的に捉えることができるとともに、自分たちにできることを見つけ、実践していくことができる。
 (3) 自分たちの実践をパンフレットにまとめたり、地域の方に発表したりすることで、海とともに生きるための自分たちの実践に自信をもつとともに、よりよい地域の創造に向けて意欲をもつことができる。

【主な連携機関と内容】

- ・与論島観光協会：発信・発表
- ・与論町B&G海洋センター：体験活動
- ・(かごしま水族館) 今後連携予定
- ・池田龍介氏：海岸のゴミ拾いのお話
- ・渡邊暢雄氏：サンゴについてのお話

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
体験的な活動	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>1 海と生物：海に触れる</p> <p>① 海辺の環境調査(8)総合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・潮だまりにいる生物の観察から、海洋生物に興味をもつ。 ・海辺にはどんな生物がいるのだろうか。 ・私たちの町ではどんな魚がとれるのだろうか。 ・カヌーやSUP体験を行ってみよう。 <p>② 生き物の調査(8)総合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・潮だまりにいた生物について調べ、海と海洋生物との関係について探求する。 ・この魚は成長したら何になるのだろうか。 ・学校で飼うことができるのかな。 <p>③ 海辺のクイズを作ろう(4)総合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持ち帰った生物を水槽で育て、廊下に置いて他学年の児童にも見てもらい、クイズを作って紹介する。 ・どんなクイズを作れば、興味をもってもらえるだろう。 </div>											
探求的な活動	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>2</p> <p>① グラスボート体験(2)総合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の恵みを生かした仕事にはどんなものがあるのだろうか。 ・海と観光のつながりについて学ぶ。 <p>② 海岸のクリーン作戦(3)総合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ拾いの活動を通して、ゴミがどこからやってきたか、自分たちの出したゴミをどう処理しているかを振り返り、解決の見通しをもつ。 <p>③ 地域の方から学ぼう(4)総合 (サンゴの秘密 ・サンゴの恵み ・サンゴのピンチ ・海を守るために実践していること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちにもできそうだな。 ・一緒に海を守る活動をしてみたいな。 <p>④ 伝えようみんなへ(2)行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感じたこと、学んだことを伝えよう。 ・劇にしてみよう。 </div>											
表現活動	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>2 海とわたしたち：発信・行動する</p> <p>① パンフレット作り教室(2)総合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光パンフレットを作っている観光課の方や高校生をゲストティーチャーに招き、パンフレット作りのコツを教えてください。 <p>② パンフレットを作ろう(4)総合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動から掲載記事の内容を選び自分たちの伝えたいことをパンフレットにして発信する。 <p>③ 発信「ユンヌの海を守りたい」(8)総合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットにまとめた内容をもとにプレゼンを作成し、ヨロンマラソンのウェルカムパーティーで発表する。 ・どんな発表だとみんなに届くかな。 </div>											